

# 習志野市の歴史・文化財

遺跡

建造物

石造物

神社

寺院

軍

天然記念物

その他

市

習志野市指定文化財

登録国登録文化財

1

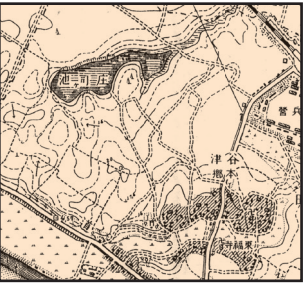
庄司ヶ池跡

他

地図A2

現在の第一中学校周辺に大正時代初期まであった池。大雨による氾濫で付近の畑に度々大きな被害を与えていたことから、大正3年(1914)に池の水を東京湾に流す排水工事をし、池は姿を消しました。この工事の経緯は丹生神社境内の「排水記念碑」に記されています(※参照)。

池の周囲3か所には水の神である弁天様が祀られ、「上の弁天」「中の弁天(与兵衛弁天)」「下の弁天」と呼ばれていました(現在は各所有者に移転)。



2

谷津貝塚

市遺

地図A2

泰の杜一丁目〜三丁目、谷津一丁目・五丁目にかけて広がる遺跡。旧石器時代・古墳時代・奈良時代・平安時代・中世・近世にわたる複合遺跡ですが、中心は奈良時代・平安時代(7世紀末〜10世紀前半)の大規模な集落です。

竪穴住居跡、掘立柱建物跡などの遺構のほか、土師器・須恵器などのやきもの類、農具・漁具として使われた石製品・鉄製品、食用にされたと思われる貝類をはじめ、遺物も大量に出土しています。出土品のうち、墨書土器、瓦塔、銭貨、金属製品の4件、計40点を市指定有形文化財に指定しています。

谷津奏の社公園内に説明板を設置しています。



3

丹生神社

神

地図A3

谷津村の産土神で、祭神は丹生都比売命。江戸時代末に伊弉冉尊を合祀したとされています。承応4年(1655)に紀伊国(和歌山県)の丹生都比売神社の祭神丹生都比売命を勧請して創建されたといわれる神社で、最初の拝殿は宝暦13年(1763)に建てられました。現在の拝殿は文化8年(1811)に建てられたといわれています。

境内には、庄司が池排水記念の碑などがあります。(※参照)



4

西光寺

寺

地図A3

真言宗。創建年次は不詳ですが、近世初期には創建されているものと考えられます。谷津村の檀那寺。本尊は阿彌陀如来。明治8年(1875)から谷津小学校として使用されています。

習志野七福神の毘沙門天札所。



5

東福寺

寺

地図A3

真言宗。天文元年(1532)以前の創建といわれています。谷津村の檀那寺。本尊の薬師如来は、天平2年(730)に僧行基が難病平癒のために彫刻し、天文元年(1532)に老僧が東福寺を訪れ置いたものと伝えられます。

習志野七福神の恵比須天札所。



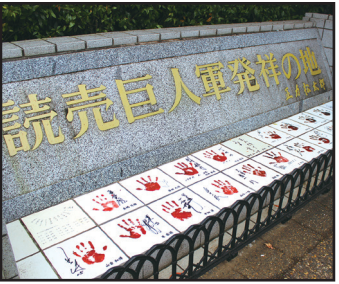
6

読売巨人軍発祥の地碑

他

地図A3

昭和9年(1934)に第2回日米野球が全国で開催された。全チームには、有名なベープ・ブルースやルー・ゲーリックもいました。第1戦(神宮球場)の前日、11月3日に谷津遊園内の谷津球場で日米両チームの公開練習が行われました(試合は行われていない)。この時の全日チームの選手の多くが日本最初のプロ野球団読売巨人軍に入ることになります。谷津球場のちに読売巨人軍の練習場としても一時使用されました。



7

伊藤新田(塩田)・谷津遊園跡

他

地図A3

伊藤新田(塩田)は明治期に伊藤第一が拓いた塩田。明治32年には塩業調査所津田沼試験場が設置され、製塩技術の研究が行われました。明治44年の台風による暴潮で破壊されたらしく、試験場は船橋に移転。大正14年(1925)には、京成電気軌道株式会社(現京成電鉄)がこの地を買収し、谷津遊園を開園しました。マンモスプール、ジェットコースターなど多くのアトラクションを備え、昭和57年(1982)に閉園するまで首都圏有数の行楽地として親しまれました。



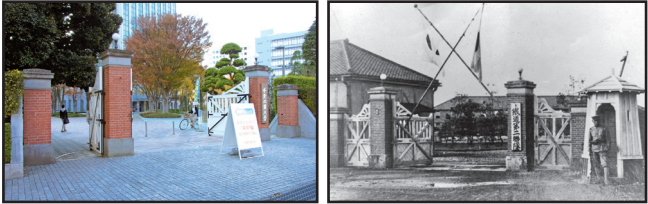
8

千葉工業大学通用門(旧鉄道第二連隊表門)

登軍

地図B2

千葉工業大学の通用門の煉瓦造門柱4基は、旧陸軍の鉄道第二連隊の表門として使われていたものです。鉄道第二連隊の施設の建物跡として残っている貴重な遺構として、平成10年(1998)に、国登録有形文化財に登録されました。



9

旧陸軍鉄道連隊跡

軍

地図B2

鉄道線は戦地で鉄道の敷設や運転、破壊に従事する部隊。東京中野にあった鉄道大隊が日露戦争後の明治40年(1907)に連隊に昇格し、千葉と津田沼に移転しました。津田沼には第三大隊が置かれ、大正7年(1918)に鉄道第二連隊に昇格しました。総武線津田沼駅の南側に本部と兵營、演習場など、北側に材料廠・演習線停車場がありました。



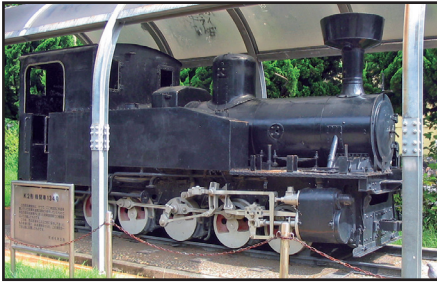
10

K2形機関車

軍

地図B2

昭和18年(1943)に鉄道連隊が川崎車輛に製造させた機関車。戦後、西武鉄道が取得し、ユネスコ村で保存されていたのを、ユネスコ村公園に伴い、平成5年(1993)に本市が譲り受け鉄道第二連隊の材料廠があった現在の場所に設置しました。



11

菊田神社

神

地図B3

久々田村(現津田沼)の産土神で、祭神は大己貴命(大主命)。治承5年(1181)にこの地に来た藤原師経が先祖の藤原時平公を合祀したといわれています。

平安時代初期の弘仁年間(810〜823)の創建とされます。久々田大明神と称しましたが宝暦年間(1751〜1764)に菊田神社と改称したといえます。

千葉県指定無形民俗文化財である「下総三山の七年祭り」に参加する一社。役割は紋父。



12

津田沼尋常高等小学校跡

他

地図B3

津田沼尋常高等小学校は、明治初期に創立した菊田・鷺沼・谷津・藤崎・大久保尋常小学校を統合する形で明治41年(1908)に創立。当初は東漸寺を仮校舎として、それまでの各小学校を分校場としてそのまま使用。明治43年(1910)に津田沼役場の隣に新しく校舎を建設しましたが、高学年のみ通学し、低学年は分校場に通いました。校舎の増築により、昭和2年(1927)には大久保以外の分校場を統廃。以後、戦時中の津田沼国民学校、戦後の津田沼小学校への改称を経て、昭和32年(1957)に津田沼小が現在地に移転するまで使用されました。



13

東漸寺

寺

地図B3

真言宗。創建年次は不詳ですが、慶長・宝永年間(1596-1711)といわれています。久々田村の檀那寺。本尊は延命地蔵菩薩。明治6年から菊田小学校として使用されました。

習志野七福神の福祿寿札所。



14

真瀬家住宅

登建

地図B3

主屋は、房総民家の特徴を良く保持した江戸時代の古民家で、明治末期に現在地に移築され、一部改築されています。

蔵と倉庫は、雑穀問屋であった廣瀬家の商品保管倉庫として、明治になってから建てられたものであり、井戸上屋は、昭和10年頃の建築です。

蔵は奇形蔵(土壁がなく、柱を林立させ、板を外壁に張った強固な構造)の特徴があります。

平成15年(2003)に、国登録有形文化財に登録されました。

※敷地内の見学等はご遠慮ください。

15

神之台

他

地図B3

下総三山の七年祭りで大祭の終了を知らせる神の台に移築された。時代の移り変わりに伴い、電車やバスの時代に到来したため、昭和26年(1951)に川崎製鉄千葉製鉄所に引き取られ、[NUS2]と名付けられました。蘇我駅から製鉄所構内まで、毎日資材を運搬していましたが、昭和52年(1977)に本市が譲り受けました。

※学校への立ち入りはご遠慮ください。



16

菊田遊歩道(菊田川)

他

地図B3

菊田川は、現在の船橋市の滝台・田喜野井・三山を上流として、藤崎、久々田、鷺沼を経由して東京湾に流れる川。現在はほとんどが暗渠(地下の水路)化しています。菊田遊歩道は暗渠化した菊田川の河川沿いに作られました。



17

鷺沼古墳

市遺

地図B3

鷺沼址公園周辺の数基の古墳からなる古墳群。城址公園内にある2基の古墳は、昭和41年(1966)の調査で全長20〜25mの竪立貝形の前方円墳であることが確認されました。西側のA号墳は下総型円周溝輪を出土し6世紀後半と推定。東側のB号墳は、埴輪が出土せず、2基の石棺が発見され、6世紀末と推定。2基の石棺のうち1基は、南房総から運ばれたと考えられる砂岩・凝灰岩を用いています。この石棺からは成人男性2人分の人骨片が発見され、直刀破片・土土・鉄鏃・刀子などの副葬品も出土しました。石棺は昭和51年(1976)に習志野市指定史跡となっています。



18

根神社

神

地図B3

鷺沼村の産土神で、祭神は面足命・惶根命・素戔鳴尊・埴田彦命。創建年次は不詳ですが、一説には平安時代中期の創建といわれています。

享保17年(1732)に本殿が再建され、安政5年(1858)には拝殿が再建されました。



19

慈眼寺

寺

地図B3

真言宗。創建年次は不詳ですが、近世初期にはすでにあったと考えられます。鷺沼村の檀那寺。本尊は聖観世音菩薩。本堂裏には、慈眼寺の手書塾(いわゆる寺子屋)に学んだ生徒たちが法印清伝師を偲んで建立した筆字塚があります。

慈眼寺は明治7年から鷺沼小学校として使用されました。敷地内には、明治期にカキ養殖を勧めた伊東佐次兵衛を記念する碑もあります。

習志野七福神の大黒天札所。



20

八剱神社

神

地図B4

根神社の末社で、祭神は日本武尊。創建年次は不詳ですが、江戸時代前期の創建と考えられています。文化13年(1816)に本殿が焼害。毎年3月に「剣」という祭りが行われています。

天狗の面をかぶり御簪を持った人を先頭に、身を清めた白装束の8人の若者が、長さ2メートルほどの剣をそれぞれ持つて鷺沼中を回り歩き、疫病退散・無病息災を祈願します。



21

山縣飛行士殉空之地碑

他

地図B4

伊藤首次郎(※参照)の一番弟子である山縣豊太郎は、民間初の宙返りを成功させ、天才飛行士として絶賛された人物です。大正9年(1920)8月、練習飛行中、3回連続宙返りを試みた際に翼が折れ、墜落死してしまいました。その死を悼んで昭和15年(1940)に伊藤首次郎が建てた碑です。



※鷺沼特定土地地区画整理事業の工事に伴い、現在、見学できません。今後、碑は他の場所に移設する予定です。

22

伊藤飛行機研究所滑走路跡

他

地図B4

民間飛行家の伊藤首次郎は、大正4年(1915)、稲毛海岸に「伊藤飛行機研究所」を設立しましたが、大正6年(1917)の台風と高潮によって壊滅したため、翌年、鷺沼海岸に研究所を移転し、飛行機の研究や製造、飛行士の養成に力を尽しました。

当時の津田沼・稲毛海岸の遠浅の干潟は格好の滑走路として利用されました。



23

SL蒸気機関車(NUS2)

他

地図B4

大正13年(1924)にドイツで製造された蒸気機関車で、茨城鉄道や鹿本鉄道(熊本県)で活躍しました。時代の移り変わりに伴い、電車やバスの時代に到来したため、昭和26年(1951)に川崎製鉄千葉製鉄所に引き取られ、[NUS2]と名付けられました。蘇我駅から製鉄所構内まで、毎日資材を運搬していましたが、昭和52年(1977)に本市が譲り受けました。

※学校への立ち入りはご遠慮ください。



24

子安神社

神

地図B2

藤崎村の産土神で、祭神は素戔鳴尊と稲田姫命。創建年次は不詳ですが、一説には治承4年(1180)の創建と伝えられています。現在の拝殿は昭和58年(1983)に再建されました。



25

藤崎富士講社の富士塚

市他

地図B2

江戸時代末期に造られ、昭和6年(1931)の改築後に現在の姿となりました。藤崎富士講社は市内で唯一、現在も活動している富士講の団体です。

富士塚は、登山道や富士山周辺の名所・行場の名を刻んだ石碑などを配置し、富士山の岩岩を使用して造られています。



26

正福寺・筆字塚

寺石

地図B2

真言宗。創建年次は不詳ですが、近世初期には創建されていたものと考えられます。藤崎村の檀那寺。本尊は聖観世音菩薩。明治7年から藤崎小学校の校舎として使用されました。

習志野七福神の布袋札所。

正福寺兵衛堂の隣にある筆字塚は、安政5年(1858)に亡くなった正福寺の手書塾の師田久保伊三郎を偲んで、弟子たちが建てたものです。



27

藤崎正福寺大イチョウ

市天

地図B2

藤崎正福寺の子安観音堂隣に立つ大イチョウ。樹齢400年といわれ、樹高10メートル、幹回り4メートル、根回り11メートルほどです。現在は市道のすぐ脇にありますが、この市道は昭和30年代に開通したもので、もとは正福寺の境内に位置していました。

昭和51年(1976)に習志野市指定天然記念物に指定しました。また平成14年(2002)には「習志野市名木百選」にも選ばれました。



28

藤崎古道

他

地図B2

東金(御成)街道が開通する以前の旧道といわれています。

藤崎岡田貝家・子安神社の入口と菊田川低地とを結んでいます。台地の開口付近には「日露戦役記念碑」が建てられています。



29

木曾王海森林鉄道 機関車

他

地図C2

長野県木曾王海森林鉄道で使用されていたディーゼル機関車。昭和50年(1975)までヒノキやサワラなどの木材を運んでいました。その後、森林鉄道の廃止に伴い、昭和51年(1976)に本市が譲り受けました。



30

騎砲兵連隊跡(順天堂大学跡)

軍

地図C2

昭和10年(1935)、騎兵第2旅団に騎砲兵大隊が設置され、昭和12年(1937)この大隊は騎砲兵連隊に改編されたといえます。この連隊については3千人ほどの兵士がいたとされます。戦後の昭和26年(1951)に、連隊跡地に順天堂大学体育学部が設置されました。同学部は昭和63年(1988)に印旛郡へ移転しました。



31

陸軍習志野衛戍病院跡

軍

地図C2

明治34年(1901)、騎兵第一旅団に騎砲兵大隊が設置され、順天堂大学跡に在りました。戦時中(1937)に満州に移転しました。戦後、騎砲兵連隊に改編されたといえます。この連隊については3千人ほどの兵士がいたとされます。戦後の昭和26年(1951)に、連隊跡地に順天堂大学体育学部が設置されました。同学部は昭和63年(1988)に印旛郡へ移転しました。



32

騎兵第13連隊跡

軍

地図C2

騎兵第13連隊は、明治34年(1901)に設置。騎兵第14連隊とともに騎兵第一旅団を構成。現在の日本大学生産工学部付近に所在していました。昭和7年(1932)に満州に移転しました。移転後の跡地には騎兵第13連隊が発祥の地「碑」が残されています。

※見学をされる場合は学校の許可を得てください。



33

騎兵第14連隊跡・戦車第二連隊跡

軍

地図C2

騎兵第14連隊は、明治34年(1901)に設置。騎兵第13連隊とともに騎兵第一旅団を構成。現在の日本大学生産工学部付近に所在していました。昭和7年(1932)に満州に移転し、戦車第二連隊が置かれました。現在、跡地内には「騎兵第十四連隊発祥之地」碑が残されています。

※見学をされる場合は学校の許可を得てください。



34

騎兵第15連隊跡

軍

地図D2

騎兵第15連隊は、明治34年(1901)に設置。騎兵第16連隊とともに騎兵第二旅団を構成。昭和16年(1941)に解散し、騎兵第16連隊とともに騎兵第13連隊の跡地に移転しました。騎兵第16連隊の跡地には陸軍習志野学校(南ガス戦の教育・研究機関)が設置されました。騎兵第16連隊は昭和16年(1941)に解散し、騎兵第15連隊とともにその主力で騎兵第73連隊が編成され、満州に移転しました。習志野学校は終戦まで存続し、現在、跡地は東葉中学校・高等学校になっています。

第73連隊が編成され、満州に移転しました。跡地には騎砲兵であった陸軍習志野学校が拡張しました。現在、跡地は東葉大学付属東葉中学校・高等学校になっています。



35

騎兵第16連隊跡・習志野学校跡

軍

地図D2

騎兵第16連隊は、明治34年(1901)に設置。騎兵第15連隊とともに騎兵第二旅団を構成。昭和8年(1933)、満州に移転した騎兵第13連隊の跡地に移転しました。騎兵第16連隊の跡地には陸軍習志野学校(南ガス戦の教育・研究機関)が設置されました。騎兵第16連隊は昭和16年(1941)に解散し、騎兵第15連隊とともにその主力で騎兵第73連隊が編成され、満州に移転しました。習志野学校は終戦まで存続し、現在、跡地は東葉中学校・高等学校になっています。



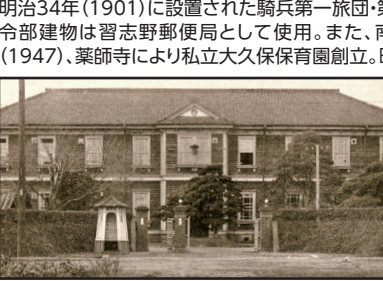
36

騎兵第一・第二旅団司令部跡

軍

地図D2

明治34年(1901)に設置された騎兵第一旅団・第二旅団の司令部跡。戦後は、司令部建物は習志野郵便局として使用。また、南側の偕行社建物は昭和22年(1947)、薬師寺により私立大久保保育園創立。昭和24年(1949)4月、津田沼町に移管。昭和40年(1965)まで保育所として使用。その後、中央を南北に道路が開通し、郵便局は改築を経て市民プラザ大久保に、保育園は八幡公園となりました。八幡公園西側に移設した司令部門柱が往時の面影を残しています。



37

誉田八幡神社

神

地図D2

大久保新田の産土神で、祭神は神田別之尊(応神天皇)。延宝年間(1673〜81)に大久保新田の開拓である市角頼守が、河内国古市郡誉田村(現大阪府羽曳野市)より勧請したといわれます。当初の場所として本大久保三丁目の富士見公園付近で、その後現在地に移されました。現在の社殿は安政2年(1855)改築。



38

薬師寺

寺

地図C2

真言宗。大久保新田の産土神といわれる市角頼守の持仏堂であったとされています。明治17年に寺となり、それまでは薬師堂と称しました。本尊は薬師如来。明治中期には大久保小学校仮校舎として使用されました。

習志野七福神の弁財天札所。



39

誉田八幡神社旧跡碑

神

地図C3

大久保四丁目に所在している誉田八幡神社(※参照)は、創建当初、この地に建立されたといわれています。



40

花咲貝塚

遺

地図C3

昭和45年(1970)に宅地造成に伴って発見。遺跡は台地上から台地斜面の低地に近い部分にまで広がっていると考えられます。縄文時代早期後半(約7千年前)の竪穴住居跡・軒が発見され、同時期の土器・石器も出土しました。貝層はハマグリ・ハイガイ・オキシジミ・カキ・サルボウで構成。大久保1号児童公園内に説明板を設置しています。



41

天津神社

神

地図D3

屋敷台新田の産土神で、祭神は天沼王大神。室町時代に、馬加城主の馬加氏が屋敷台に一時移り住んだとき、守護神の妙見菩薩を祀ったのが始まりといわれます。妙見菩薩と現祭神の天沼王主神は神仏習合の下では同一視されていました。元は妙見宮と称されており、江戸時代に天津神社と改称したといわれますが、明治初期の神仏分離で改称したともいわれています。



42

大宮大原神社

神

地図D2

大原神社は実稲村の産土神で、文祿元年(1592)の創建とされます。祭神は伊弉冉尊。明治41年(1908)に伊弉冉尊を祭神とする大宮神社を合祀。以後、夫婦二神であることから縁結びの神とされます。

千葉県指定無形民俗文化財である「下総三山の七年祭り」に参加する一社。役割は紋母。



43

無量寺

寺

地図D2

真言宗。創建年次は不詳。古くは尼寺で、武石氏の祈願寺であったが、千葉氏滅亡とともに衰微。東金(御成)街道造成の際に再興したといわれます。実稲村の檀那寺。本尊は阿彌陀如来。聖観世音菩薩を脇侍とします。明治6年から実稲小学校として使用されています。

習志野七福神の寿老人札所。



44

習志野俘虜収容所(ロシア)跡

軍

地図E2

日露戦争時、ロシア兵捕虜を収容した収容所。明治38年(1905)に開設し、翌年閉鎖されるまで最大で1万5千人のロシア兵捕虜に収容し、建物完成は約1か月後。捕虜を見物する人々が大勢詰めかけたといえます。この地には以後、高津廠舎やドイツ兵捕虜収容所も設置されます。



45

陸軍習志野演習場 高津廠舎跡

軍

地図E2

習志野陸軍演習場で演習する兵士のための仮宿舎。学生軍事教練でも使用されました。習志野演習場に付属する廠舎はもともと成田遊園沿いにありましたが、日露戦争時のロシア兵捕虜収容所跡だったこの地に、大正時代初期に移されたと考えられます。高津西廠舎と高津東廠舎に分かれていました。



46

習志野俘虜収容所(ドイツ)ドイツ捕虜オーケストラの碑

軍

地図E2

第一次世界大戦時、東習志野に開設された習志野俘虜収容所(1915-1920)で、ドイツ兵捕虜が人道的な待遇のもと、オーケストラ活動を行っていたことを記念する碑。第一次大戦終結90年の平成27年(2008)に、収容所跡地に建てられました。当時、この収容所では最大で約千名のドイツ兵・オーストリア兵が生活していました。



47

旧陸軍演習場内圍壁

登軍

地図E2

日本軍の大陸進攻の演習用として、昭和9年(1934)に工兵第1大隊作業隊により建設された壁。壁には銃眼の跡があります。

旧陸軍が演習に使用した現存する数少ない建造物として貴重な遺産であり、平成14年(2002)に、国登録有形文化財に登録されました。

※敷地内の見学等はご遠慮ください。



48

駒止谷跡